

謹賀新年

皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

令和七年 元旦

阿部敏雄(敏翁)

以下の話題で新年の御挨拶に代えさせて頂きたいと思います。

1. 健康問題トピックス

6月にコロナに罹り（5回目）、救急車に2回お世話になる程重症でした。
しかし約1か月程で回復しましたのでご安心下さい。

2. 店じまい

2.1 カラオケ

内田雅人さん馴染みのスナック「蛸」（横浜・ガーデン下 今はもう無い）
と小生馴染みのスナック「メロディハウス」（川崎・貝塚）で2003年頃から
始まった東芝材遊会カラオケ部会（ここ10年以上石川聖さんが主催）を
4月に店じまいして頂きました。その時の集合写真をご覧に入れます。



場所はメロディハウス 前列左より篠崎、小生、小野、石川
後列左より安達、北条、藍原、内藤、鷺塚、久子ママ（以上敬称略）

2.2 懇親会

私も超高齢になって、思い出の中で暮らす事が多くなり、あの人、この人に
会いたいと思う事が多々ある様になって居ります。

しかし、その方々は既に亡くなり、または身体不自由などで会えない方が

日に日に増えてきております。

すると米国在住の西義雄さんから、自分も高齢になり懐かしい方々と会いたい
思いが強くなってきているとのメールを頂いたのです。

それで西さんの帰国のスケジュールに合わせて「最後の(?) 懇親会」と名付けた
会合を計画することにしました。

その開催(6月1日)の様子を纏めたものがあり、上記赤下線部分をクリック
すればご覧頂けます。ここでは、集合写真のみをご覧に入れます。
場所は同じくメロディハウスです。



前列左より中川、西、小生、出井、塩見、久子ママ

後列左より藍原、篠崎、田内、米山、香山

2.3 車の運転

しかし車の運転は、当分続けるつもりです。

来春の免許更新に向けて11月20日に高齢者講習(認知症機能検査と実車指導)
を受け無事通過しました。

講習の最後に、指導員から“この方は94歳ですが、実車指導の成績は100点でした”
と紹介され、同席の講習者達から拍手を貰うという一幕もありました。

3. 余暇

旧年中最も時間を割いたのは、J・J・R・トールキン著「指輪物語」でした。

始めはWOWOWでその映画化された「ロード・オブ・ザ・リング」3部作
を見たのが始まりでした。3部作何れもアカデミー賞を取っていますが、

特に最終作の『王の帰還』は11部門でノミネートされ、その全てで受賞を果たし
ましたが、これは『ベン・ハー』、『タイタニック』に並んで最多受賞数です。

これらを見て原作に興味を持ったのが時間を割くに至った要因です。

詳細は、ウィキペディアで見て欲しいのですが、その中から抜き出してみます。

『指輪物語』は大作であるが、実はこの物語は1917年以来トールキンが長年取り組んで
来た、巨大な神話群または伝説体系の、最後的一篇でしかない。

トールキンは驚くほど自らの世界を詳細に形成し、登場人物の系図、言語、暦、歴史を含む完全な神話体系を創造した。この補足資料のいくらかは『指輪物語』『追補編』で詳述されている。神話の物語は『シルマリルの物語』と題する聖書のような叙事詩的長編へと織りあげられた。

その膨大な体系を理解するのに解説書、研究書へと手を広げ、その数十数冊に及び、どうやら収まるのに4か月ほどを要したのです。

4. 名教自然

この項目は、横浜国大・理工学部、またその前身横浜高等工業学校関連の方々のもので、私は後者が先の戦争中横浜工業専門学校と改名された直後(?)に入学しています。

因みに本年の年賀状は約60通出していますが、その中で10通がこの関連です。

名教自然碑というものがあって、現在は横浜国大工学部にありますが、登録有形文化財に登録されています。その画像やより詳細はウィキペディアでご覧頂けます。

元は1937年に、横浜国立大学理工学部の前身となる横浜高等工業学校の初代校長・鈴木達治の功績を表敬して弘明寺の高等工業キャンパスに設置されたものです。

鈴木 of 自筆による「名教自然」の四文字が石碑に刻まれている。「優れた教育や研究は自然を尊ぶ。すなわち、学生自らの意志による主体性から学問を修めるべきである」という、横浜高等工業学校の教育理念を表している。実際に、自由主義と三無主義（無試験・無採点・無賞罰主義）を同校の教育主義と定め、自学自発を奨励することで優れた人材を育成する姿勢を貫いた。

(ウィキペディア)

この自由を貴ぶ精神は、私の中にも受け継がれている様に思います。

その鈴木達治先生（煙洲と号していた）の書「名教自然」を大先輩故・萩原忠臣氏（1933年電気化学科卒。小生も1949年同科卒。御存命中大変お世話になっている）のご子息萩原義昭氏（現萩原電気ホールディングス株式会社名誉会長）から頂いたのです。遺品を整理中に見つけたもので、忠臣氏がリトグラフ(?)でコピーしたものらしいと言う事でした。

これを昨秋、表具店に頼んで額にしたものを私の居間に飾ってあります。書の長さは約90cm。居間の風格が少し上がった様な気がして満足している次第です。



少し蛇足を重ねます。

筆の勢いからは、戦時中意気軒高だった頃煙洲先生が揮毫したもの様に思われます。

先生は、自由主義者ではあったが、所謂右翼的人物でもあった様で、先生の薫陶を得たせいか、終戦の日早朝、首相官邸を襲った一群（指揮者は本学建築学科第一期生佐々木武夫陸軍大尉）の中に多数の本学学生が加わっていた事は良く知られていて、映画「日本でいちばんながい日」にも描かれています。映画は1967年・東宝・黒白、2015年・松竹と2回されていますが、前者の方が詳しく描かれていて学生の帽子の校章にも”高工”とはっきり見えています。

尚、佐々木大尉は、先生の養女と結婚しています。より詳細はウィキペディア。

先生は、この学生たちのその後も面倒を見たという話も聞いていたように記憶しています。

今年も少しおしゃべりが過ぎた様ですが、ご笑納頂ければ幸いです。